

I. 青色申告決算書と「皆様の経営概要」

酪農学園大学農食環境学群循環農学類 教授 小糸健太郎

1. はじめに

現在、農業の営農指導者や生産者の身近な経営資料として青色申告決算書がある。軽種馬営農指導者のみなさんが、経営改善のためにこの身近なデータを活用できるように、本稿では、以下の点について解説する。

まず、① 青色申告決算書を活用した経営把握の例として、軽種馬生産地調査に協力いただいている生産者に配付している「皆様の経営概要」の紹介をする。

つぎに、② 「皆様の経営概要」が配付されていない生産者が簡単に「皆様の経営概要」と同じような数値を見ることができるよう、「皆様の経営概要」と青色申告決算書との関係についての解説をする。

そして、③ 「皆様の経営概要」の活用方法についての解説をする。

最後に、生産効率を考える場合において生産費調査の考え方およびその数値は経営管理において参考となると考えられるため、④ 毎年報告されている日本軽種馬協会「軽種馬生産費等調査報告書」に掲載されている生産費調査の考え方とその活用方法について解説する。

2. 「皆様の経営概要」について

軽種馬生産地調査は、軽種馬生産の実態を把握して、軽種馬の生産振興と軽種馬生産経営に関する基礎資料を得ることを目的とされて、記帳データと聞き取り調査によって、軽種馬の生産費統計の作成を行い、基礎資料として利用されている。

こうした中、軽種馬生産地調査に協力いただいている生産者に、少しでも経営に役立つ情報を還元することを目的に、青色申告決算書からのデータを中心として「皆様の経営概要」を作成し配付している。資料編にサンプルを示しているが、内容としては以下の通りである。

① 経営規模・成績の概要把握

経営概要として、表１－１、表１－２にあるように、労働力、繁殖牝馬飼養頭数、収支の概要を表で示すとともに、調査対象生産者の平均値を示している。

ただし、年度によって大きく変化することが想定されるため、３ヵ年平均値を示し、その値との比較としている。

表１－１ 「皆様の経営概要」

	2018	2019	2020	3ヵ年平均	全体値(3ヵ年)
家族労働(人)	3	3	3	3.0	2.8
雇用労働(人)	1	2		1.0	2.9
常雇用(人)			1	0.3	1.0
臨時雇用(人)	1	2	1	1.3	2.0
繁殖牝馬平均飼養頭数	3	5	4	4.0	11.5
自己有(頭)	3	5	3	3.7	6.1
仔分け(頭)				0.0	1.0
預託(頭)			1	0.3	4.3

表１－２ 「皆様の経営概要」

4 収支概要	2018	2019	2020	3ヵ年平均	全体値(3ヵ年)
利益	-2,205	-701	5,470	855	16,924
収入合計	6,865	7,927	13,286	9,359	50,417
販売金額	3,540	3,955	6,732	4,742	27,881
産駒(自己有)	3,240	3,955	6,732	4,642	26,333
産駒(仔分け)				0	1,544
繁殖牝馬	300			100	5
受託料			1,240	413	12,817
支出合計	9,070	8,627	7,816	8,504	33,493
種付料	550	891	1,200	880	5,675
飼料費	1,065	1,065	1,162	1,097	3,269
人件費	50	33	49	44	2,125
常雇				0	1,690
臨時雇	50	33	49	44	258
減価償却費	2,482	1,709	1,307	1,832	3,467
馬	672	92	100	288	891
その他	1,645	1,470	1,006	1,374	2,576

さらに、これらの数値を生産者が読み取りやすいように、図１－１～図１－５

に示されるように、重要な数値をグラフ化している。

経営規模

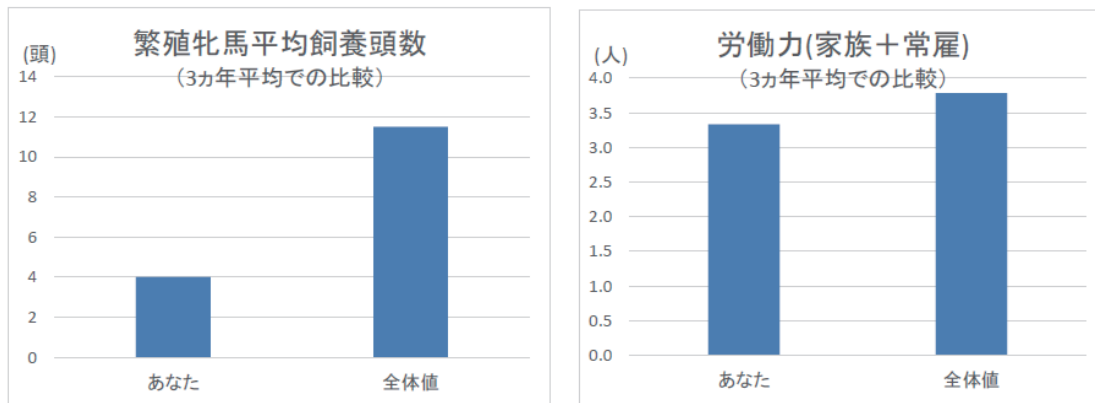


図 1－1 「皆様の経営概要」

第一に、図 1－1 のとおり調査対象生産者全体と規模の比較ができるように、繁殖牝馬平均飼養頭数、労働力を棒グラフで示している。平均値と比較して、頭数規模、労働力の位置付けを確認することができる。

生産率

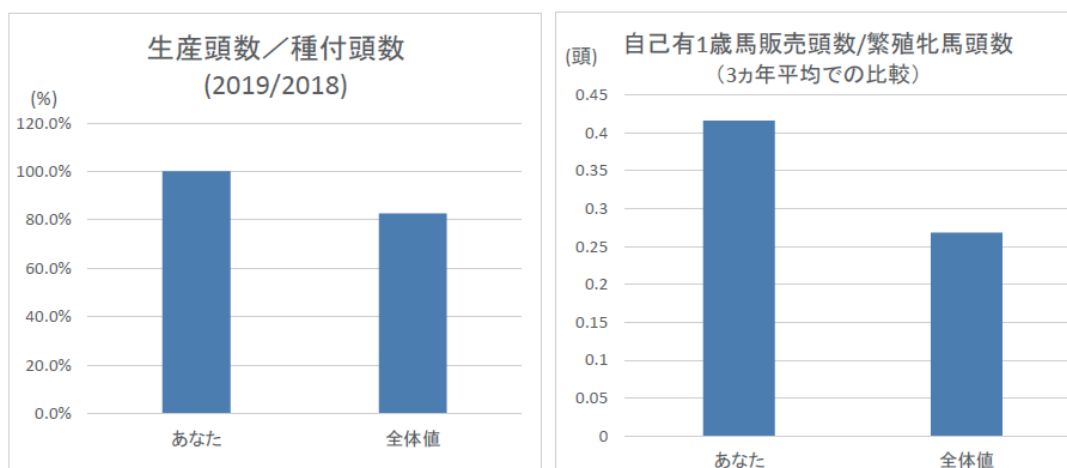


図 1－2 「皆様の経営概要」

第二に、図 1－2 のとおり繁殖状況を調査対象生産者の平均値と比較できるように、種付頭数に対する生産（分娩）頭数、繁殖牝馬に対する自己有 1 歳馬の販売頭数を棒グラフで示している。

収益性

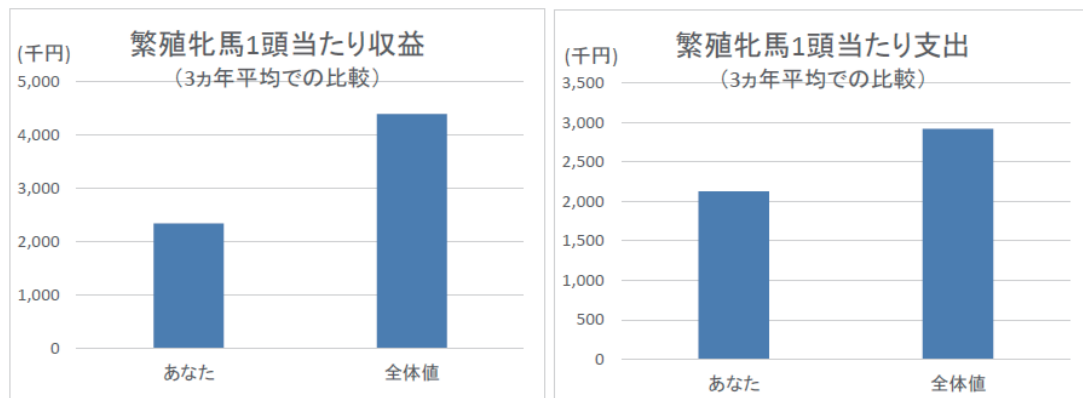


図 1－3 「皆様の経営概要」

第三に、図 1－3 のとおり収益および支出を調査対象生産者の平均値と比較するために、繁殖牝馬 1 頭当たりの収入および支出を棒グラフで示している。

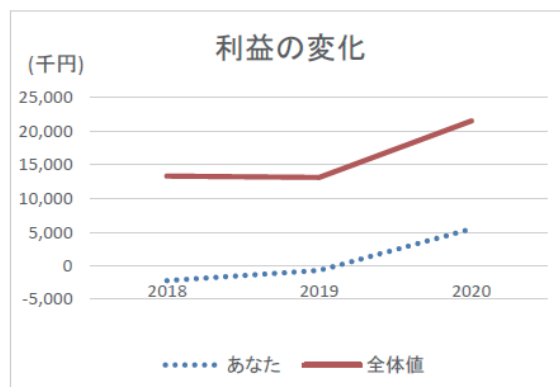


図 1－4 「皆様の経営概要」

第四に、図 1－4 のとおり 3 年間の利益の変化について、調査対象生産者の平均値と比較できるように、折れ線グラフで示している。



図 1－5 「皆様の経営概要」

最後に、図 1－5 のとおり繁殖牝馬 1 頭当たりの経営概要を調査対象生産者の平均値と比較できるように、こちらは、偏差値に合わせた 5 段階評価で示している。従って、3 が平均に近い値となっており、収入に関する部分は、5 に近いほど平均値よりも多いことを示し、費用に関する部分は、5 に近いほど平均値よりも少ないことを示している。

② 収入内訳の把握

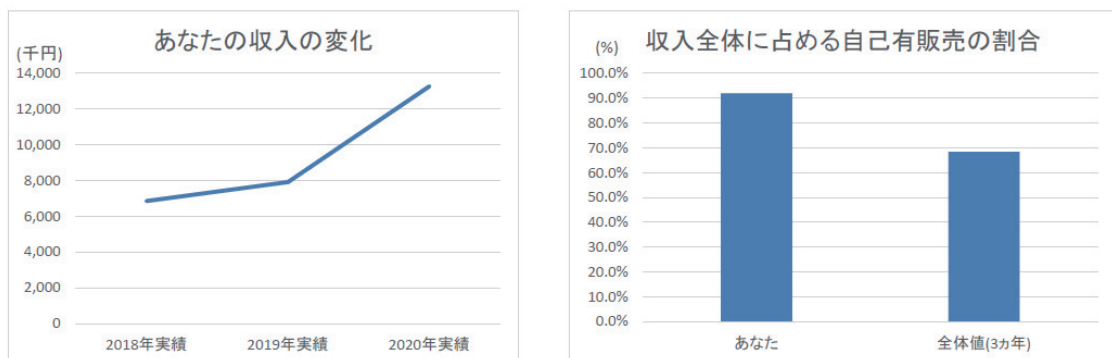


図 2－1 「皆様の経営概要」

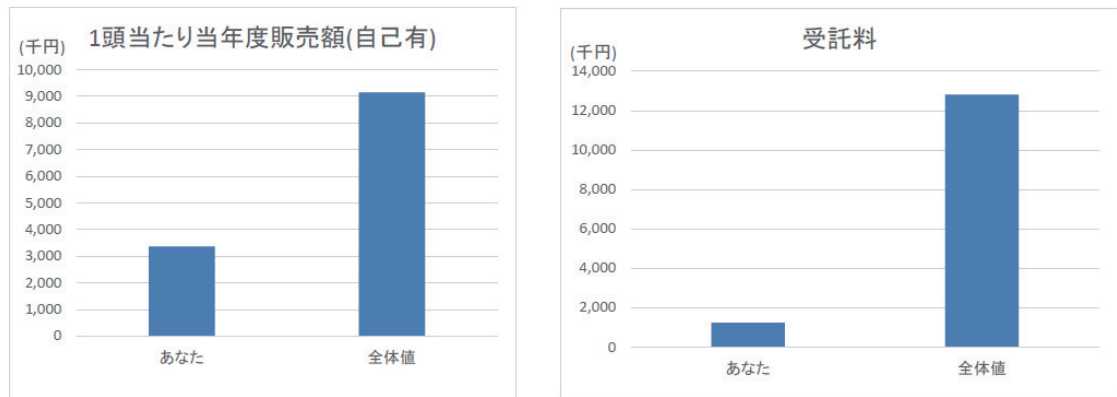


図 2－2 「皆様の経営概要」

経営収支のうち収入の内訳について、図 2－1、図 2－2 にあるように表で示しているとともに、3 カ年平均、調査対象生産者の平均値を示している。経営概要と同様に、生産者が数値を読み取りやすいように、重要な数値をグラフ化している。

第一に、3 カ年の収入の変化を折れ線グラフで示している。

第二に、収入の構造を比較するために、収入全体に占める自己有馬の販売額の割合、自己有馬 1 頭当たりの当年の販売額、および受託料を調査対象生産者の平均値と比較して示している。

③ 支出内訳の把握

表 2 「皆様の経営概要」

物 財 費	牧場当たり				全体値(3カ年)
	2018年実績	2019年実績	2020年実績	3カ年平均	
種付料	550	891	1,200	880	5,675
	7.1%	11.1%	14.8%	10.4%	20.4%
購入飼料	1,065	1,065	1,162	1,097	3,269
	13.7%	13.2%	14.3%	12.9%	11.8%
家畜医療費	274	254	185	238	1,261
	3.5%	3.2%	2.3%	2.8%	4.5%
減価償却費	2,482	1,709	1,307	1,832	3,467
	31.9%	21.3%	16.1%	21.5%	12.5%
馬	672	92	100	288	891
その他	1,645	1,470	1,006	1,374	2,576
租税公課	162	128	140	143	1,733
	2.1%	1.6%	1.7%	1.7%	6.2%
共済・保険	462	487	430	460	947
	5.9%	6.1%	5.3%	5.4%	3.4%
その他経費	723	844	967	845	1,938
	9.3%	10.5%	11.9%	9.9%	7.0%
	7,773	8,039	8,107	7,973	25,633

経営収支のうち支出の内訳について、図4のように示しているとともに、3ヵ年平均、調査対象生産者の平均値を示している。

費用は項目数が多いため、ここでは、生産者が数値を読み取りやすいように、とりわけ、物財費は、種付料、購入飼料費、家畜医療費、減価償却費、租税公課、共済・保険費に絞って示し、その他の物財費を「その他経費」としており、これらの変化、平均値の比較を容易にするように工夫されている。

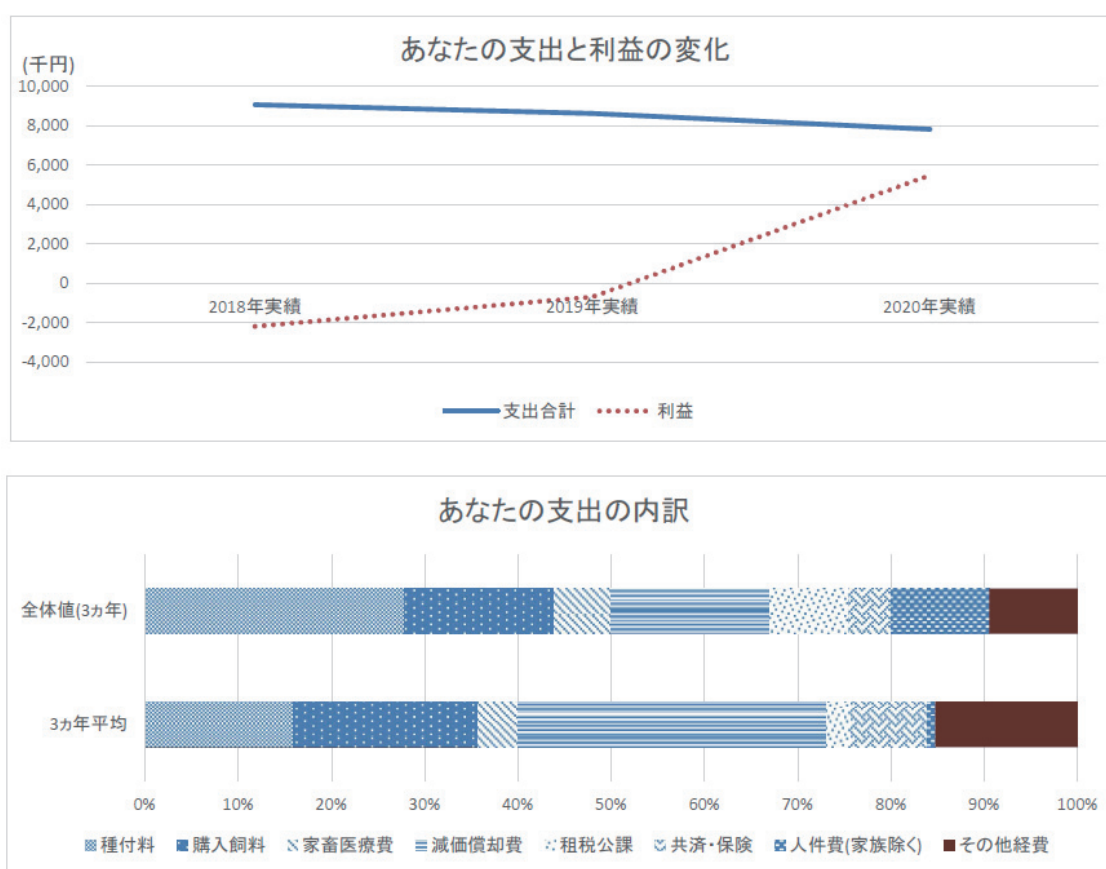


図3 「皆様の経営概要」

また、収支の変化として、3年間の支出の変化を利益の変化と合わせてみることができるように、折れ線グラフ（図3）で示している。

さらに、自分の経営と調査対象生産者の平均値の支出構造を比較し、生産者の支出状況の特徴を捉えることができるように、支出の内訳を帯グラフで示し

ている。

以上の内容で、ア．自分の経営が調査対象生産者の平均値と比較して、どのような特徴があるのかを捉え、イ．自分の経営がどのように変化しているのかを、簡単に見ることができるように工夫しており、できるだけ経営改善のために活用できるように工夫して数値を示している。

3. 青色申告決算書から「皆様の経営概要」の数値を求める方法

前節での「皆様の経営概要」を配付されていない生産者も、ほぼ同様の資料を作成することは可能である。ここでは、青色申告決算書から「皆様の経営概要」の数値の求め方について解説する。手順は以下の通りである。

① 青色申告決算書を用意する。

青色申告決算書（農業所得用）

科目		金額	科目		金額	科目		金額
収入金額	販売金額	① 13,286,000	経費	共済掛金	430,000	差引金額 (⑦-⑭)		⑮ 6,670,000
	家事消費	金額 ② 0		家畜医療費	185,000	種	繰	
	事業消費			雇人費	49,000	引	戻	
	雑収入	③ 1,200,000		減価償却費	1,307,000	当	額	
	小計 (①+②+③)	④ 14,486,000		利子割引料	12,000	金	等	
経費	農産物の棚卸高	⑤ 0	経費	地代・借地料	51,000	・	繰	
	期末	⑥ 0		福利厚生費	0	準	入	
	計 (④-⑤+⑥)	⑦ 14,486,000		(略)	0	備	額	
	租税公課	⑧ 140,000		小計	⑩ 8,419,000	金	等	
	種付料	⑨ 1,200,000		農産物以外	⑪ 2,193,000	青色申告特別控除前の所得金額		
経費	飼料費	⑩ 1,162,000	経費	外の棚卸	⑫ 2,796,000	青色申告特別控除額		
	(略)	⑪		計 (⑩+⑫-⑬)	⑭ 7,816,000	所得金額		
	(略)							

図4 青色申告決算書（農業所得用）の例

まず、青色申告決算書（農業所得用）を準備する。ここでは、図4に示されるように、(A)の欄にある「収入金額」と(B)の欄にある「経費」に注目する。

② 収入の内訳を整理する。

「皆様の経営概要」の収入は、変動が生じる生産者賞を含めない金額としている。従って、同様の表を作成するためには、青色申告決算書の(A)「収入金額」のうち、生産者賞の収入金額を除くことになる。収入金額の部分は、別途付随している「収入の内訳」を見て、記入することになる。

表1は、「皆様の経営概要」の収入の欄である。収入の内訳から、販売金額の欄は、産駒（自己有馬）、産駒（仔分）、繁殖牝馬、受託料、その他収入（牧草・

表3 「皆様の経営概要」の収入の欄（数値欄は空白）

上段(千円)
下段(小計①に対する割合%)

③ 支出の内訳を整理する。

表4は、「皆様の経営概要」の支出の欄である。

表4 「皆様の経営概要」の支出の欄（数値欄は空白）

2 支出

（千円）

		牧場当たり				全体値(3ヵ年)
		2018年実績	2019年実績	2020年実績	3ヵ年平均	
支出	物 財 費					
	種付料					
	購入飼料					
	家畜医療費					
	減価償却費					
	馬					
	その他					
	租税公課					
	共済・保険					
	その他経費					
	小計①					
	労 働 費					
	人件費					
	常雇入料					
	臨時雇入料					
	福利厚生費					
	小計②					
	地代・賃借料・利子・割引料					
	小計③					
	農産物以外の棚卸	期首⑤				
		期末⑥				
支出合計						
利益						

「種付料」、「購入飼料」、「家畜医療費」、「減価償却費」、「租税公課」、「共済・保険」を記載し、その他の物財費は、「その他経費」に記載する。つぎに、「労

働費」、「地代・借地料・利子・割引料」、「農産物以外の棚卸」を記載し、それ以外を「その他」とする。

④ 経営概要を整理する。

経営概要については、馬の飼養動態表や土地の保有・利用状況が分かる資料、聞き取り等で記載する。表5は、「皆様の経営概要」の経営概要の欄である。これに記載すると、ほぼ「皆様の経営概要」と同じグラフも作成することができる（偏差値で示している図を除く）。

⑤ 比較対象となる調査対象生産者の平均値

調査対象生産者の平均値と比較をしたい場合、収入と支出については、日本軽種馬協会「軽種馬生産費等調査報告書」の「軽種馬飼養経営の収支状況」にある表を利用できる。例えば、令和3年度版（令和2年度実績）の「軽種馬生産費等調査報告書」であれば、P31にある経営収支（調査対象経営別収支）の全体平均である。

ただし、この表では、「収入」に「生産者賞」が含まれていることから、その額を除く必要がある。また、表には、繁殖牝馬平均飼養頭数が表記されていることから、繁殖牝馬平均飼養頭数1頭当たりの数値と収入および支出を比較することができる。

表5 「皆様の経営概要」の経営概要の欄（数値欄は空白）

経営名			経営開始年		
住所					

経営概要					
経営形態					
兼業業種					
軽種馬部門					
労働力員数	2018	2019	2020	3ヵ年平均	全体値(3ヵ年)
家族労働(人)					
雇用労働(人)					
常雇用(人)					
臨時雇用(人)					
繁殖牝馬平均飼養頭数					
自己有(頭)					
仔分け(頭)					
預託(頭)					
	計	自己有	仔分け	預託	全体値(当概年)
種付頭数(前々年、頭)					
生産頭数(前年、頭)					
	2018	2019	2020	3ヵ年平均	全体値(3ヵ年)
販売頭数(総数)					
自己有2歳馬(頭)					
自己有1歳馬(頭)					
自己有当歳馬(頭)					
仔分(頭)					
繁殖牝馬(頭)					
飼料生産実面積(ha)					
自己有地(ha)					
採草地(ha)					
放牧地(ha)					
借地(ha)					
採草地(ha)					
放牧地(ha)					

参考までに、表 6 は、日本軽種馬協会「軽種馬生産費等調査報告書」の繁殖牝馬平均飼養頭数 1 頭当たりの収入および支出である。

表 6 (1) 繁殖牝馬 1 頭当たりの収入

収入の部	(千円)					
	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
販売金額	1,680	2,215	2,504	2,313	2,234	2,863
受託料	933	924	1,019	1,088	1,077	1,248
牧草販売	100	203	78	186	149	79
厩肥販売金額	0	1	0	0	0	0
生産者賞	188	268	341	321	281	230
その他収入	279	438	411	391	333	654
固定資産処分益	0	0	0	0	1	0
農産物の棚卸	9	-2	4	3	-0	-0
計	3,188	4,047	4,357	4,302	4,073	5,073

資料：日本軽種馬協会「軽種馬生産費等調査報告書」各年より作成

表 6 (2) 繁殖牝馬 1 頭当たりの支出

支出の部	(千円)					
	2015	2016	2017	2018	2019	2020
	年度	年度	年度	年度	年度	年度
種付料	569	493	546	648	467	433
飼料費	429	426	406	438	435	453
敷料費	16	23	41	31	22	22
肥料費	38	48	56	63	40	43
放牧管理費	27	31	55	44	42	145
種苗費	4	10	18	1	10	2
農薬等	30	40	37	37	17	35
動力光熱費	90	86	100	108	125	82
家畜医療費	117	119	120	111	122	108
装蹄費	6	7	6	19	16	15
租税公課	91	101	120	125	129	206
減価償却費	513	496	515	470	404	479
修繕費	119	130	145	177	126	179
諸材料費	31	43	44	45	33	36
農具等	18	25	18	5	15	5
預託料	121	111	90	92	72	101
人件費	138	155	200	209	198	165
農産物以外の棚卸	-211	56	17	-117	25	68
その他経費	235	257	235	216	262	308
共済掛金・保険料	119	121	111	143	126	123
負担金・会費等	85	74	75	75	81	71
利子割引料	40	31	28	21	16	23
地代・賃借料	139	174	159	151	136	158
固定資産処分損	1	24	1	7	0	18
計	2,766	3,082	3,141	3,121	2,920	3,279
利益	423	965	1,216	1,181	1,153	1,794

資料：日本軽種馬協会「軽種馬生産費等調査報告書」各年より作成

4. 経営管理における「皆様の経営概要」の活用

日本軽種馬協会「軽種馬経営財務管理指導教本」(2008)には、軽種馬経営は、不安定性・変動性・不定期性を持つという特徴があるとし、その変動が大きいという特徴から、経営管理・分析のポイントは、変動を軽減し、より客観的に示す方法が求められるとしている。そのため、単年でなく複数年平均による検討視点、他の軽種馬経営との比較も必要であるとしている。このような視点から、経営分析はもちろんのこと、各経営の変化を把握することも肝要であろう。経営分析の詳細な方法については、「軽種馬経営財務管理指導教本」(2008)に委ねるとし、「皆様の経営概要」では、① 経営の変化を把握することが容易にできる、② 他の軽種馬経営との比較が容易にできる、③ 過去の「皆様の経営概要」を並べることで長期的な変化を見ることができるという利点があることから、これらについて解説する。

① 3年間の経営の変化を把握する

「皆様の経営概要」は、3年間ではあるが、経営の変化を見ることができる。その構成は、ア. 全体の把握として、収入・支出・利益が増加しているのか、その変化を見ることができる。次に、その変化の要因をつかむために、イ. 収入の構成として、産駒の販売金額・受託料収入・農産物収入の変化、ウ. 支出の構成の変化として、種付料、購入飼料、家畜医療費などの変化を確認することができる。利益は、収入と支出の差であることから、当然、収入が減少したとしても、支出がさらに減少すれば、利益は増加することになり、反対に、支出が増加しても、収入がそれを上回る増加があれば、利益は増加することになる。これらは、生産者の生産技術とも密接に関係している。

収入および支出の変化については、非常に多くの項目と関連していることか

ら、図6にあるツリー図などを活用して、整理しながら経営管理を考えることも有効である。

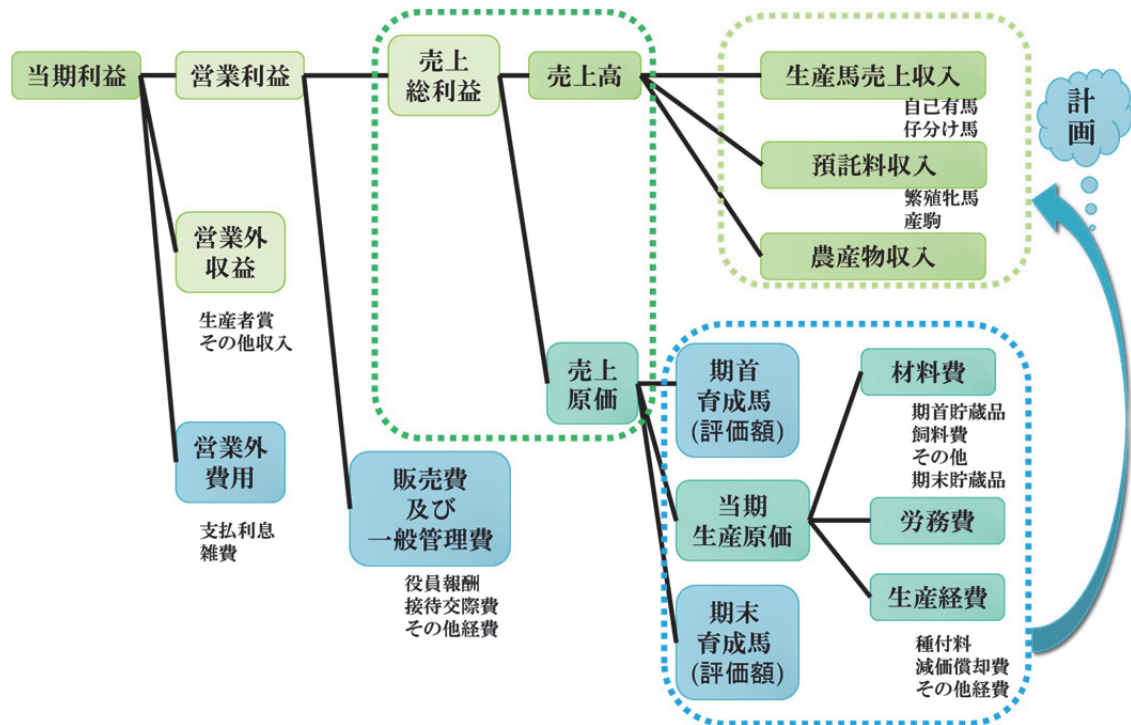


図6 経営分析ツリー図（中央畜産会資料より作成）

② 他の軽種馬経営との比較する

先述したように、軽種馬経営は変動が大きいという特徴を有している。そのため、生産者の経営指標として、単年度の数値だけでは問題があると言える。

そこで変動を小さくし、より客観的な指標として、「皆様の経営概要」では、3ヵ年平均を示している。3ヵ年平均が経営指標として望ましいのかについては検討の余地はあるものの、軽種馬生産の種付から販売までのサイクルを考えると、3ヵ年平均で見ることは、一つの指標となると考えられる。「皆様の経営概要」では、この3ヵ年平均をその年度時点での生産者の経営指標として用い、他の経営と比較することができる。

「皆様の経営概要」で比較対象としているのは、生産地調査の調査対象生産

者の平均値である。これは一つの指標となる。しかしながら、軽種馬経営はその分布も大きい。おおよそ、生産者の位置を知るためには、表5にある生産地調査対象生産者の3ヵ年平均の分布（2020年）も参考になる。各指標の分布は、平均値が中央値（表7では、パーセンタイルの50%）よりも大きいことから、概ね左側に偏った分布（平均値よりも小さい数値に多く分布）をしていることがわかる。

表7 生産地調査対象生産者の3ヵ年平均の分布（2020年 n=19）

		平均値	標準偏差	四分位範囲	パーセンタイル		
					25%	50%	75%
繁殖牝馬平均飼養頭数	（頭）	11.1	5.8	6.5	7.0	9.7	13.5
利益	（千円）	15,948	14,741	18,873	4,332	11,156	23,206
収入	（千円）	46,762	30,444	46,674	18,404	43,211	65,079
支出	（千円）	34,154	20,921	26,285	17,085	31,429	43,370
繁殖牝馬1頭あたり収益	（千円/頭）	1,495	1,381	1,532	607	879	2,139
繁殖牝馬1頭あたり収入	（千円/頭）	4,426	2,747	3,104	2,479	3,291	5,583
繁殖牝馬1頭あたり支出	（千円/頭）	3,223	1,737	2,333	2,001	2,167	4,335
繁殖牝馬1頭あたり種付料	（千円/頭）	560	453	373	291	382	664
繁殖牝馬1頭あたり飼料費	（千円/頭）	435	332	226	266	326	492
繁殖牝馬1頭あたり家畜医療費	（千円/頭）	114	60	78	63	105	141
繁殖牝馬1頭あたり減価償却費	（千円/頭）	489	333	441	274	445	715

資料：「皆様の経営概要」の2020年より作成

さて、参考までに生産地調査対象生産者の3ヵ年平均の特徴を整理する。なお、生産地調査対象生産者は20経営体（うち3ヵ年平均が求められるのは19経営体）であり、サンプルが限られることから、2020年度の結果の傾向として考える必要があることに留意すべきだろう。

まず、繁殖牝馬頭数で見た規模と利益および利益率の関係を図7に示した。規模と利益の関係は、ある程度、規模が大きいほど利益が大きい傾向がある。ただし、同じ程度の繁殖牝馬頭数の中で利益の幅が非常に大きいことに留意が必要であろう。結果として、繁殖牝馬頭数が少なくても利益が大きい生産者も

いる。利益率との関係も図6の右側に示した。なお、これ以降の利益率は利益/収入によって求めた。

利益率でみると、繁殖牝馬頭数との関係は、ほとんどないと言える。利益および利益率は、もちろん産駒の性別などにより大きく変動するが、技術や経営管理の違いによる部分に無視できないと考えられる。

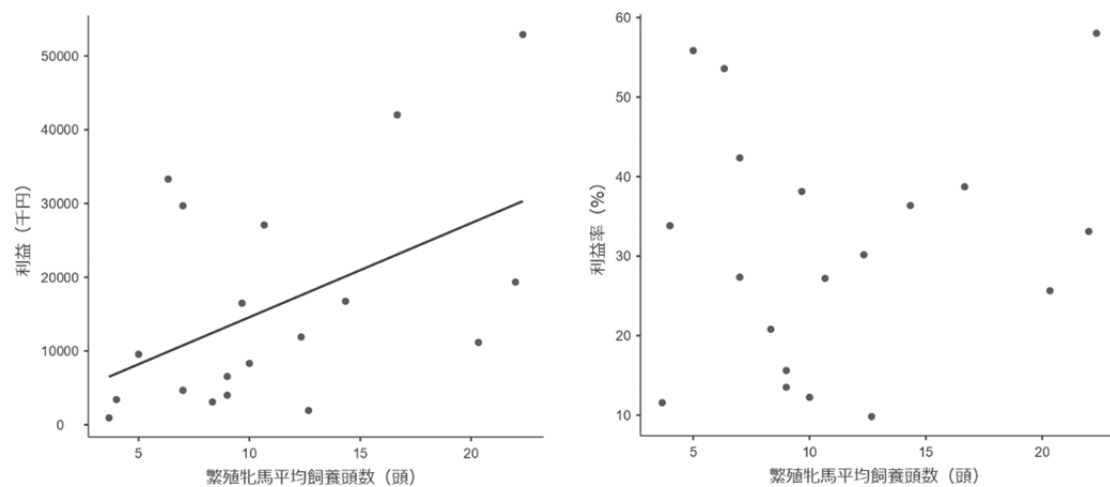


図6 繁殖牝馬頭数と利益および利益率の分布

資料：「皆様の経営概要」の2020年より作成

次に、繁殖牝馬1頭当たりの種付料と利益および利益率の関係を図7に示した。

繁殖牝馬1頭当たりの種付料と繁殖牝馬1頭当たりの利益は、正の相関関係がある。しかし、利益率との関係となると、それほど明らかな関係にはない。当然であるが高い種付料は、支出の増加につながり、利益率は減少する。そのため、利益率で考えると、安い種付料であっても一定の利益を上げられれば、利益率が高くなる場合があり、こうした経営も参考になりえると考えられる。

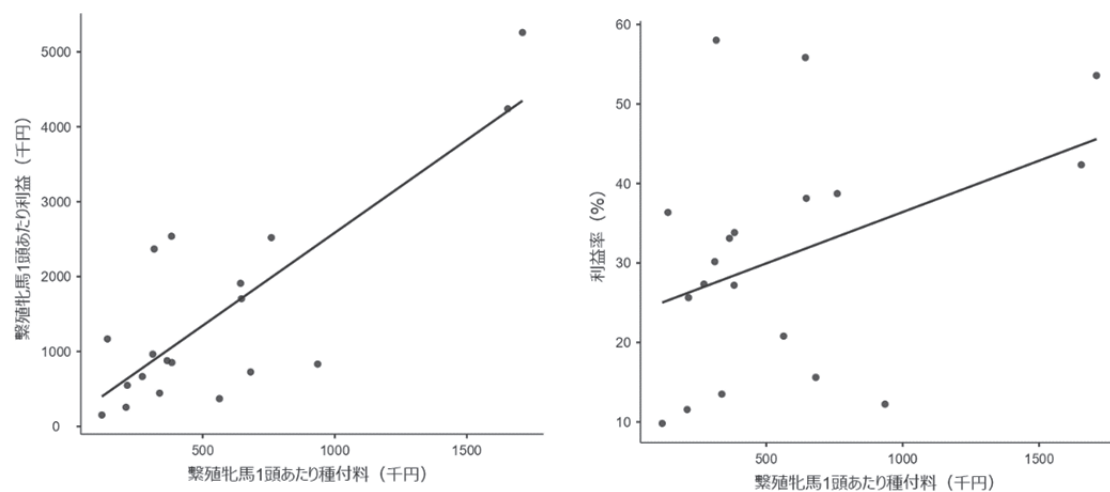


図7 種付料と利益および利益率の分布

資料：「皆様の経営概要」の2020年より作成

最後に、収入に占める受託料の割合と利益率の関係を図8に示した。

収入に占める受託料の割合と利益率には、相関関係は見られない。しかしながら、収入に占める受託料の割合が40%以上の生産者は、利益率が25%以上であった。

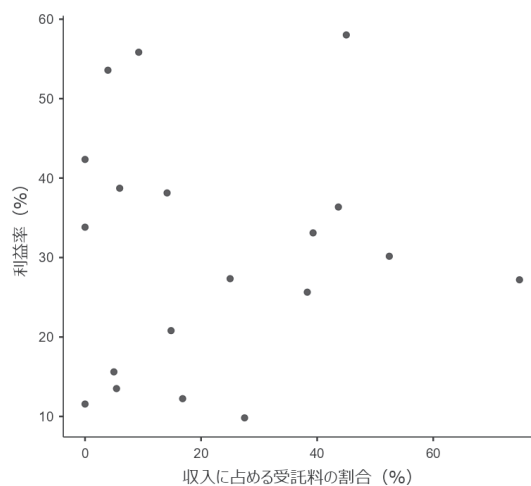


図8 収入に占める受託料割合と利益率の分布

資料：「皆様の経営概要」の2020年より作成

以上より、軽種馬経営は、一定の傾向は見られるが、種付料と利益の関係を
見てわかる通りリスクが大きいと言える。しかしながら、種付料が少ない生産
者であっても、一定の利益および高い利益率の経営も存在した。こうした点か
ら見ても、経営管理が重要であると言える。

③ 過去の「皆様の経営概要」を並べて、長期的な変化を捉える

3 年間の変化だけではなく、長期の変化を見る必要もある。過去の「皆様の経
営概要」を並べることで、経営の変化をとらえることができる。

例えば、2020 年実績の「皆様の経営概要」に掲載される 3 ヶ年平均は、2018
年から 2020 年の平均値である。同様に、2019 年実績の「皆様の経営概要」では、
2017 年から 2019 年の平均値となり、これらを比較することで、移動平均の変化
を見ることになる。

この 3 ヶ年平均を数年分比較することで、物価上昇の影響や産駒の市場の影
響は、当然ながら関係するものの、単年度の経営収支だけではなかなか読み取
れない経営管理の成果、生産の効率性の変化をある程度確認することができる。

例えば、ある年に繁殖牝馬 1 頭が受胎しなかった場合の影響を考えてみる。

ア. その年の利益を考えると、まず、もしも種付料を支払わない契約であつ
た場合は、その年の種付料は減少し、支出はその分だけ減少する。収入
については、以前の産駒の販売額であるため、収入には影響を与えない。
よって、支出のみに影響するため、その年の利益は増加する可能性があ
る。

イ. 1 年後の利益を考えると、産駒が 1 頭減るため、産駒にかかる飼料費など
の支出が減るため、利益は増加する可能性がある。

ウ. 2 年後の利益を考えると、本来なら販売する産駒が 1 頭減るため、収入が

減少して、利益は減少する可能性がある。

こう考えると、不受胎の悪影響は、単年度の経営収支だけでは読み取りにくいことがわかる。過去 3 ヶ年の平均値で考えると、産駒 1 頭を飼養する費用は減っているが、当然、産駒 1 頭分の収入も減り、さらにこの間の繁殖牝馬を飼養するため、その影響が表れるはずでる。このようにケースを含め、産駒の生産効率を検討するためには、ある程度の期間の 3 ヶ年平均値で比較する必要がある。

なお、物価上昇の影響や産駒の市場の影響などの外的要因については、調査対象生産者の平均値の変化と併せて比較することで、ある程度把握できるはずである。

5. 生産費調査の考え方とその活用

産駒の生産効率を検討する場合において、本来であれば、産駒 1 頭当たりの生産費を計算して把握することが必要であるが、その計算は、非常に複雑で労力を伴う。その理由は、主に以下の 2 点にある。

① 産駒の生産効率を計算するために、産駒ごとの費用に分ける必要がある。

経営形態が軽種馬部門のほかに別の部門がある場合は、まず、軽種馬部門と別の経営部門の費用を分ける。さらに、軽種馬部門の費用について、産駒ごとに分ける。この分け方については、産駒 1 頭ごとの状況を把握するのには限界があるため、生産費調査では、基本的には産駒の数で割るなど推計することになる。しかしながら、産駒の生産費に大きく影響すると考えられる、種付料と産駒を生産するために必要な繁殖牝馬にかかる費用については、産駒ごとの状況を把握し計算をしている。後者の繁殖牝馬にかかる費用として重要なポイントは、ア．繁殖牝馬の減価償却費を産駒に対応した繁殖牝馬ごとに計算している点、イ．繁殖牝馬の飼養費も産駒ごとに計算している点である。とりわけ、繁殖牝馬の飼養費を産駒ごとにどのように分けて考えるのかは、非常に複雑である。

繁殖牝馬の飼養費については、「軽種馬生産費等調査報告書」の計算期間の解説部分で記載されている。図 9 は、その例を示している。図の例にある、繁殖牝馬導入後の最初の産駒である産駒 A と産駒 D は、繁殖牝馬導入からその産駒が販売されるまでの期間を計算期間とし、その間の繁殖牝馬の飼養費も生産費に計算する。次の産駒である産駒 B および産駒 E は、前の産駒が販売された後の期間が繁殖牝馬の計算期間としている。そのため、産駒 E のように不受胎などにより空胎期間が長いと、明らかに産駒の生産費が増加する。このように、空胎期間も生産費に反映されるようになっている。このように当然のことなが

ら、繁殖牝馬の空胎期間の長さは、産駒の生産費用に大きく関係していることが明確である。

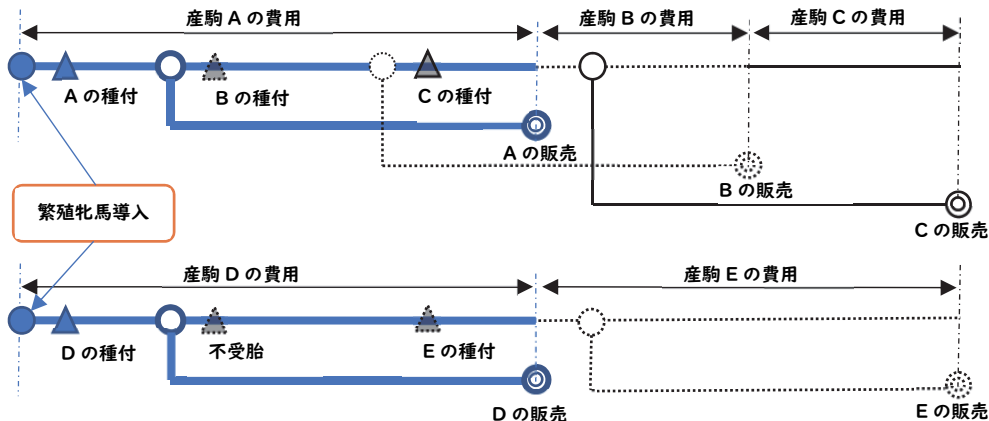


図9 繁殖牝馬の費用と産駒の生産費の計算期間

② 生産費の家族労働費は、労働時間×賃金によって算出されている。

生産費においては、家族労働時間を調べている。そして、単価としては、「毎月勤労統計（厚生労働省）」の建設業、製造業、運輸・通信業の5～29人規模の賃金を用いている。したがって、青色申告決算書にある人件費とは異なり、生産費調査の結果を読み取る際も注意が必要である。このような計算をすることで、家族経営であれば、家族労働によって得られた対価と、生産によって得られた収益を明確に区別している。

以上のような生産費の考え方を理解することは、ア．経営管理に役立てることができること、イ．日本軽種馬協会「軽種馬生産費等調査報告書」に掲載されている生産費の数値を目安として活用できること、の 2 点につながる可能性がある。

参考までに、図 10 では、2016 年から 2020 年の産駒 1 頭当たりの生産費を示

している。2020 年の産駒 1 頭当たり生産費は、650 万円で家族労働費を除くと 513 万円であった。また、費用の内訳としては、種付料が 162 万円、飼料費 71 万円、繁殖牝馬の償却費 25 万円、労働費 161 万円（うち家族労働費は 138 万円）であった。

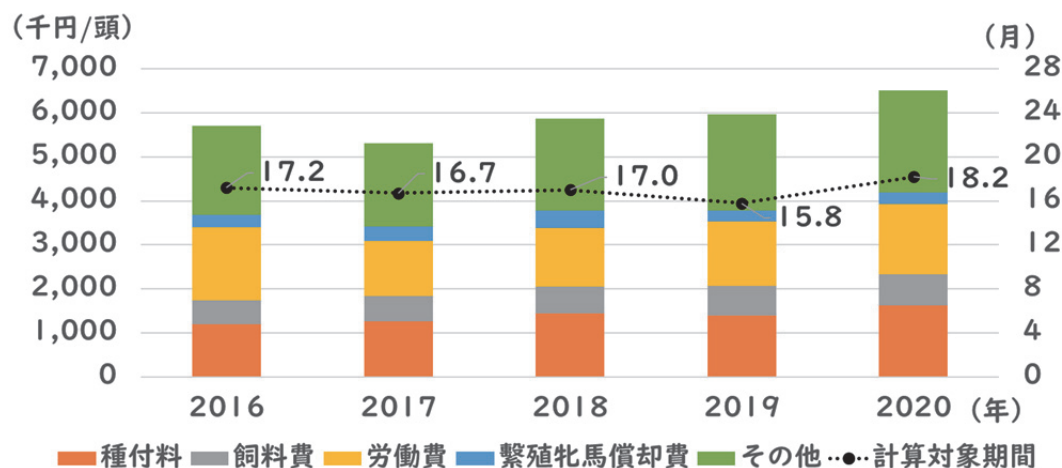


図 10 産駒 1 頭当たり生産費（2016 年～2020 年）

資料：日本軽種馬協会「軽種馬生産費等調査報告書」

6. おわりに

本稿では、「皆様の経営概要」の紹介およびその活用方法を中心に解説をしてきた。また、「皆様の経営概要」が配付されていない生産者も、同様のデータ整理ができるための方法についても、解説してきた。

「皆様の経営概要」は、簡易なデータ整理をすることで、ある程度の経営管理につながることを期待できる。さらに、日本軽種馬協会「軽種馬経営財務管理指導教本」（2008）のツールとしても期待している。

今後、これらの資料を活用し、軽種馬生産者の経営管理に少しでも役立てば幸いである。